

えんちょう先生の

わくわくだより

NO. 13 10/27(水)

秋の自然は子ども達の遊びの宝庫。

え！どうして！そうなの？..

沢山の事を教えて貰い楽しんだ半日でした。

年長組 (中の島公園にて第1回木育教室)

今年度恵那市の初めての取り組みである「木育」教室。武並と岩村の二園で年長さんを対象に行って貰っています。このエーナ木育クラブの皆さんは、自然を大事に思ってみえる庭師さんや元保育園の先生や山の草花などととても勉強してみえる方々の集まり。子ども達に自然の美しさや木々の不思議や営み、そうした自然の果たす役割などを遊びながら伝えていかれます。朝9時、先発の子がスクールバスに乗って阿木の中の島公園に向かいました。すでに現地では木育クラブの皆さんが集合し、手でアーチを作ってバスから降りる子ども達を迎えて下さいました。見れば高い木々につないだ木製ブランコが2基、ターザンロープが2本、子ども達は早く乗ってみたいばかり。でもすぐには乗れません。帽子を被ったクヌギの大きなどんぐりがトトロに変身。それを木々の周りで捜し出した子からブランコやロープで遊べます。子ども達はあちこち捜しまわって「あった！」と嬉しそうにブランコの周りに集まります。アルプスの少女ハイジがブランコに乗っているアニメを思い出すようなニコニコ笑った子ども達が代わりばんこに木のブランコやターザンロープに挑戦。そうこうしている内、2便の子も到着し、早速「猛獣狩りにいこうよ！」の遊びから始まりました。直さんが歌の終わりにあちこち指さして「あ、あ、あ、むかで！」と言えども子ども達は3人組になります。すかさず、クラブ員のお兄さんの服の下からムカデの写真が。「これがいたら触らないでね」と教えて貰います。直さんが「へび」と言えども二人組になる子ども達。「これははじめじめした枯草や葉っぱの下にいるから気を付けよう！」こんな風にして、写真を見ながら熊、蛾、蜂など林や森に住む注意のいる生き物の特性についても教えて貰った子ども達でした。

さあ！いよいよ探検に出掛けます。子ども一人一人に肩掛けの新聞バックを作って頂き、「この中に宝物を捜して入れてね。このバックは何からできている？」の質問に「紙」中には「木」と答えた子もいたね。下にゆったり流れる阿木川を望み、「森にお邪魔しまーす」と声を掛け林の中にグループ毎に入って行きました。「この穴の開いた葉っぱは蛾のこどもが食べたんだよ」「この赤い葉っぱは漆と言ってかぶれるからさわらないで」「こんな鳥の巣があったよ この林には鳥も住んでいるんだ」「これはつるりんどう、赤い実がついているね」これは「シャクジョウソウと言うよ」「シダは恐竜の時代からあるんだよ」の一言にエルマーの冒険の竜君を思い出し「あ、竜君がたべとったかも？」と早速ちぎってみたり。もみじの種を取って貰い、ほうりなげるとくるくると回って落ちます。皮がむけた木の側面を見て「この穴はキツツキのドラミングと言って、キツツキが木の中から虫を捜して食べた穴だよ」と教えて貰ったね。みんなで目隠しをして友達の前を両手を置き進んだ鉄製のつり橋、中央で目隠しを取ると、眼下には透き通った緑色の水が悠々と流れる大河が・・・園からバスで15分来ただけなのに、なんて素敵な景色か！心地よい風ときれいな空気、秋の紅葉の中で木の実や落ち葉を沢山バックに詰め込んで帰ったみんなでした。



早朝から、お仕事を休んで子ども達と遊んでくださったエーナ木育クラブの皆さんに感謝ですね。みんなでお礼を言い帰りのバスに乗りました。朝、2便で来た子は、1便の子を送ってから、ブランコやターザンロープで遊んだね。歩きながら、落ち葉を拾いながら「楽しかったね」と、何度も子ども達のつぶやきを聞きました。「今日は鳥のお家があったけど2回目にはみんなと一緒にみんなが入れるお家作りをしよう」と話を聞き、次回、子ども園での活動が楽しみになった子ども達です。3回目は木でペンダント作り、これも嬉しいね。初めて園バスに乗った事が嬉しかった子もいたようです。園では出来ない沢山の学びと、遊びと全身で心地よさを満喫してきた年長さんでした。自然の中は最高だったけど、エーナ木育クラブのおじさん、お婆さんの優しい声掛けにみんなメロメロだったみたいです。